

一宮市立市民病院

病院長名 松浦 昭雄

所在地 〒491-8558
愛知県一宮市文京2丁目2番22号

交通案内 JR 尾張一宮駅
名鉄 名鉄一宮駅から徒歩20分

病院の特徴

当院は尾張西部医療圏の中心的な基幹病院です。ICU、NICUを含め594床、29の診療科があります。救命救急センター、地域周産期母子医療センター、災害拠点病院、地域がん診療連携拠点病院に指定され、結核・感染症病原体の運営を行う等、医療の拡充に努めています。

愛知県内の救急医療機関の中でも忙しい救急外来といえます。初期研修に必要な基本的診療に関する知識、技能及び基本的態度を実践的に学ぶのに適しています。

研修の特徴

医師の基本的な卒後教育として、将来の進路にかかわらず、日常診療で頻りに遭遇する疾病に対して適切に対応できるよう幅広い基本的な臨床能力（態度、技能、知識）を身につけ、患者を全人的に理解し、患者・家族と良好な人間関係を築くことのできる臨床医の育成を目的としています。

- 1) 医師として身につけるべきプライマリケア対応能力を取得できるようにする。
- 2) 医の倫理を守り、病を癒すだけでなく人を治す医療をめざす。
- 3) 各科における基本的な診断、検査、治療に関する知識・技術を習得する。
- 4) 救急医療における対応能力を身につける。
- 5) チーム医療の構成員としての役割を理解し、他の医療メンバーと協調できる診療態度を身に付ける。
- 6) 医師の社会的役割を自覚し、医師としてふさわしい態度と責任感を養う。

【プログラムの特徴】

- 1) 研修医個人にカスタマイズされた成長性、柔軟性のあるプログラムです。
- 2) 各科でのローテーション研修以外に、研修医講義用プログラムが充実しています。
- 3) 指導医と連絡を密にし、個別に研修状況を確認しながら指導しています。

○1年目

すべて必須研修となります。

○2年目

必修研修以外は選択研修となります。



メッセージ

指導医（初期研修管理委員会委員長 満間 照之）

初期研修先を選択するうえで各科研修の充実が大切です。当院は平成22年度に循環器呼吸器病センターとの統合を経て、10年で医師数が倍近くなり、平成30年度には緩和ケア病棟が新設されました。尾張西部地域約50万人の医療圏で中心的な基幹病院として救命救急センターを中心に1次から3次までの患者を受け入れています。そのためプライマリケアから高度医療まで幅広く深みのある研修ができるようになっています。



初期研修は一人よりも多くの仲間、先輩や後輩とともに教え教わりながら研修をしたほうがよりよく学べるとの方針のもと、採用時には人間性を重視しています。2年間の初期研修を経て良い医師になれるよう病院全体でサポートしています。また内科、外科、小児科は専門医研修における基幹施設認定を受けており、初期研修が終了しても引き続き専門医になるための研修が受けられます。プログラムも研修医の要望を聞きながら毎年ブラッシュアップしていますので病院とともに成長していきたい方に当院の初期研修はおすすめです。

研修医（1年次研修医 畑中 景）

当院は従来より尾張西部医療圏の中核病院として、専門的診断・高度医療の提供を行っており、かつ地域に根ざした医療を行っております。

初期研修医は各科のローテートと救急外来での当直を主に行なっています。各科のローテートでは、上級医の先生のご指導の下で治療方針を考えたり様々な手技を学ぶことができます。また、当直は1,2年次各2人ずつの計4人体制で行い、1次から3次救急まで、common diseaseからrare diseaseまで多様な患者さんに対する初期対応を経験することができます。当直では独り立ちするまでの間は2年次の先生にご指導いただき、手厚い教育体制の下で自分の成長を実感しながら様々な知識や手技を学ぶことができます。



当院の特徴としましては、診療科が多いため将来の進路に関わらず幅広い臨床能力を身につけることができます。その他、上級医による勉強会や研修医同士の勉強会も定期的開催されており、非常に活気溢れる病院です。研修医同士も仲が良く、切磋琢磨しながら研修しています。大切な2年間の初期研修医生活を一宮市立市民病院で一緒に送りましょう。是非実際の雰囲気をご自身で確かめに来てください。お待ちしております。

募集要項

採用実績	2021年度 13人 ・ 2022年度 13人
給与/月額	1年次 336,748円 ・ 2年次 354,728円 （※手当を含まず）
当直回数/月	6回
当直料/回	宿日直は勤務扱いとしており、時間外勤務手当を支給
その他	宿直明けの日は振替休日
応募連絡先	担当者 草田 将輝
	電話番号 0586-71-1911
	Eメール kan-138@municipal-hospital.ichinomiya.aichi.jp